

15 車縁地環境保全地域



1 地域指定

- (1) 指定地域 八幡神社周辺一帯（北茨城市）
- (2) 指 定 昭和57年3月25日（茨城県告示第437号）

2 保全計画の概要

(1) 指定理由

本地域は、スダジイ、アカガシ等の常緑樹林で、車集落に接しており、かつ、歴史的資産を有する車城跡を包含している。

この林内には、ベニシダ、オオバノイノモトソウ等の暖地性シダ植物が群落となって生育し、植生上、暖帶林としての特徴を有しております、県北地方における暖帶林として貴重な地域である。

また、この常緑樹林のもとに、南方系のモンキアゲハ、オスジアゲハ等の希少性を有するチョウ類が生息し、さらに、花園川が近接しているところから、トンボ類やセミ類が豊富に生息している。

このように、貴重な暖帶林と周囲の森林の中に豊富な動植物が見られるところから、これらの環境を保全する必要がある。

このため、本地域は、茨城県自然環境保全条例第10条第1項第1号及び第2号に規定する「樹林地及び歴史的資産が集落地周辺と一体となって、良好な自然環境を形成している区域」に該当する。

(2) 自然環境の概要

ア 植 生

一団のまとまった森林の山頂部分には、スダジイ、アカガシ、モミの常緑樹を優占種としてケヤキ、イヌシデ、イロハモミジの落葉樹が大径木となって混生している。

林内には、シラカシ、アカメガシワ、ケヤキ、カヤ、イヌガヤ、ヤブツバキ、アオキ、チャノキ、アセビ、サンショウが見られ、草本層としてベニシダ、オオバノイノモトソウ、ヤマイタチ

シダ、クマワラビの常緑性シダ植物、ヤブコウジ、ティカカズラ、ヤブラン（ユリ科）、シキミ、ギンリョウソウ（腐生植物）が生育しているなど暖帯林の相観を有するもので、県北地方においては希少価値のある森林として位置づけられる。

また、この暖帯林の周囲には、スギが植栽され、林内にはクサギ、ヤブツバキ、カヤ、イヌガヤ、コアジサイ、コゴメウツギ、アオキが見られ、林床にはジャノヒゲ、ティカカズラ、ヤブコウジ、シャガ、ミズヒキ、ヤブミョウガ、ジュウモンジシダが生育している。

特に、コアジサイ、ヤブミョウガは、主として関東地方以西に分布する種である。

イ 野生動物

暖帯林の様相を呈する森林のもとに、南方系の大型チョウであるモンキアゲハ、オスジアゲハが生息しているほか、コジャノメ、サトキマダラヒカゲ、キマダラセセリ、ダイミョウセセリ等が見られる。特に、モンキアゲハ、オスジアゲハは希少性を有する種で、常緑樹林の保全と密接な関係を持っている。

また、近接している花園川及びその支流には、トンボ類が豊富に生息しているほか、周囲の森林の中にはアブラゼミ、ヒグラシ等のセミ類の個体数が多い。

さらに、人家が近いことから、カケス、ヒヨドリ、オナガ、キジバト、ムクドリ、カワラヒワ等の野鳥も多く見られる。

(3) 自然環境の保全に関する基本的な事項

本地域は、スダジイ、アカガシ、モミの常緑樹を優占種とし、イヌシデ、ケヤキ、イロハモミジ等の落葉樹が混生している森林が主体をなしている。

林床には、ベニシダ等の暖地性シダ植物の群落が見られ、常緑広葉樹の生育と相まって、植生上暖帯林として位置づけられ、県北地方においては、希少価値のある樹林地を形成している。

また、この周囲のスギ林の中に生育するコアジサイ、ヤブミョウガは、主として関東地方以西に分布する種である。

さらに、この森林及びその周辺の環境のもとで、南方系のモンキアゲハ、オスジアゲハ等のチョウ類のほかにトンボ、セミ類も豊富に生息し、野鳥も数多く見られる。

特にモンキアゲハ、オスジアゲハは希少性を有する種で、常緑樹林の保全と密接な関連性を持っている。

このように、本地域は暖帯林の要素を含む森林とそこに生息する動物と相まって良好な自然環境を形成しており、これらの動植物を維持するため、自然環境の保全を図る。このため、保全に必要な規制は条例の定めにより行う。

(4) 保全施設に関する方針

巡視歩道、標識、廃棄物処理施設、植生復元施設、病害虫防除施設、給餌施設、養殖施設等を必要に応じて設ける。

3 地区の指定に関する事項

本地域の区域は次のとおりとする。

単位：ヘクタール

名 称	位 置 及 び 区 域	面 積	土 地 の 所 有 别 面 積	概 要
車 緑 地 環 境	北茨城市華川町大字車の一部	6.75	民 有 地	
保 全 地 域	（別図のとおり）		6.75	

総 括 表

単位：ヘクタール

区 分	内 許			計
	国 有 地	公 有 地	民 有 地	
土 地 所 有 别 面 積	0	0	6.75	6.75

（面積は図上測定による概算値）



車緑地環境保全地域区域図

S = $\frac{1}{5000}$

